



JAPAN CHINA Skilled-workers Exchange Center

No.121

[発行] 公益財団法人 日中技能者交流センター
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2
日本教育会館7階
TEL 03-5212-2531 FAX 03-5212-2536

日中技能者交流ニュース

2012年度 事業報告及び
2013年度 事業計画・予算案を承認

3月22日(金)10時より、日中技能者交流センターにおいて、第7回理事会(人見理事長以下13名の理事出席)が、また同日13時30分より、第4回評議員会(9名の評議員が出席し、秋田 進氏を議長に選出)が開催されました。2013年度事業計画他5議案について審議し、原案通り承認されました。

- 議案
第1号議案 2012年度事業報告承認に関する件
第2号議案 2013年度事業計画(案)承認に関する件
第3号議案 2013年度予算(案)承認に関する件
第4号議案 各種規定の承認に関する件
第5号議案 その他

事業報告・計画

1. 技能実習生受入事業の受入実習生数は前年度に比べ4%減となりました。受入実習生数は、2009年度はリーマンショックの影響から大幅に落ち込みましたが、2010年度以降は減少傾向にあるものの、毎年、一定水準を確保することができました。また、受入企業に対するサービス向上のため、センター組織を「実習生の入国から帰国まで」一貫して担



第7回理事会



第4回評議員会

当するシステム」に改編し、受入企業との関係強化や信頼性醸成を図ってきました。
2013年度は、技能実習生受入企業を増やしセンター財務体質を改善するため、サービスの向上は勿論のこと、新設した「外部協力者ネットワーク」である新規企業開拓員の機能化を図るとともに、既存企業の掘り起しを行います。
2. 日本語教師の中国への派遣については、公益事業の大きな歴史ある

事業であり、中国国家外国專家局との協定のもと、中国各地の学校に51名の教師を派遣し、国際貢献の一環として取り組みました。また、2013年3月には北京で派遣教師と中国国家外国專家局の経験交流会を開催し、現状の課題等について意見交換を行いました。
2013年度は、16名(※研修会時参加者は13名)の日本語教師を選考し、集合研修会を実施して、中国内地の各地の学校に送り出すこととしています。
3. 厚生労働省から受託した政府委託事業「国際労働関係事業」については、2012年9月に発生した尖閣諸島問題による日中間の情勢悪化にも拘らず、中国より2チームを招

へいすることができました。企業、官公庁、団体を訪問し良質な労働関係の構築や非正規労働者雇用対策などの研修を行うと共に、帰国後のフォローアップ調査を実施してきました。
2013年度についても、引き続き厚生労働省の企画提案競争入札に応募し、実施要領を提出するなど受託に向け取り組みを進めます。
4. 新規事業については、2012年7月に組織の改編と委員会を立ち上げ取り組んできました。看護師育成支援事業や人材育成事業などの事業化に向け、特にカウンターパートである国家外国專家局、国際交流サービスセンター及び職対交流センターに対しては、あらゆる機会をとらえ提案を行ってきました。
2013年度はこれまで以上に、優先順位を考慮し、スピード感を持って事業化に向け取り組んでいきます。

尖閣諸島を巡る日中間関係悪化時の対応
2012年9月に発生した尖閣諸島を巡る日中間の関係悪化時には、全てのセンター派遣教師にインターネットを通じて、安全確保を優先するよう呼びかけました。また実習生受入企業に対しては実習生の安全について要請するなど、各方面に対応を行いました。その結果、トラブルは国内外とも発生しませんでした。

一ツ橋

中国の発展に想う
2013年度事業計画協議のため4月7日(13日まで)北京市、貴州省、そして深圳市を訪問した。北京市滞在中は快晴の天候のため心配されたPM2.5も少なかったようだ。
北京では、中国国家外国專家局の張局長との会談。人力資源和社会保障部の王副部长、中華全国总工会の張副主席との会談、国際交流服務中心の付主任、中国職対交流中心の章秘書長との業務会談を行い、2013年度事業計画の具体化について議論を深めた。
今年度は、技能実習生事業と新規事業として看護師支援事業、昨年12月に專家局より「国際人材交流服務境外機構」として当センターが資格を取得したことに伴う新たな人材交流事業などについても今年度実施するための具体的検討に入ることとした。
貴州省と深圳市では、それぞれ現地の総工会と交流を行った。貴州省

は中国の中でも最も発展が遅れた省と言われていた。一方、深圳市は30年間、改革・開放政策のもと、世界の工場として最先端を突っ走る都市である。
貴州省の人口は、約4000万人、深圳市は人口4400万人ということだ。貴州省は、発展が遅れていると言われているが、省都貴陽市は、高層マンション建設と高速道路の建設が進められていた。これから急ピッチで発展していくものと思われる。
現在の貴州省は、緑豊かな大地。山は美しく水も豊富だ。さすが貴州は茅台酒の産地だけはあるとの思いを深くした。
深圳市の高層ビル群を見ながら、発展とは何か、人間にとって良い発展のあり方とは何か、貴州省で見た美しい自然を思い出しながら自然を活かした調和のとれた発展こそが望ましいのではないかと考えさせられた中国訪問であった。
理事長 人見 一夫

研修所事前講習

中国本邦外講習
★国際交流服務中心・濰坊研修所
4月8日～6月8日
教師1名 実習生18名

中国職対交流中心・即墨研修所
4月15日～6月14日
教師1名 実習生11名
4月22日～6月21日
教師1名 実習生18名

掲示板
2013年度の「政府事業(国際労働関係事業)」を厚生労働省から受託

2012年度に引き続き、厚生労働省の企画提案競争入札に応募し、当センターの企画が採用され受託することになりました。この事業は中国より関係団体を招へいし、企業、官公庁、団体を訪問、良質な労働関係の構築や非正規労働者雇用対策などの研修を行うと共に、帰国後のフォローアップを行うことを目的とした事業です。

国内集合講習
★岐阜研修所
第187期 3月14日～4月12日
教師2名 実習生12名
第188期 4月2日～5月7日
教師4名 実習生8名
第189期 4月16日～5月20日
教師2名 実習生4名

四国研修所
★四国研修所
第39期 3月10日～4月8日
教師2名 実習生17名
第40期 4月18日～5月17日
教師2名 実習生14名

2013年度

事業計画協議訪中団派遣

センターは、4月7日から13日までの日程で、人見理事長を団長とする2013年度事業計画協議団（当センター3名、関係団体4名、計7名）を中国へ派遣し、中国側3機関と協議を行い、各機関と協議書などの調印を行いました。

技能実習生事業の拡大発展、新規事業の具体策を提起

▽今回の各機関との協議では、当センター側から、「2013年度事業計画案」を基に、主として技能実習生事業の拡大発展や新規事業の具体策を中心に中国側に提起し、中国側からの積極的な協力体制を確認するなど、協議することができました。協議終了後は各機関と協議書などの調印に至りました。

中国国家外国專家局を訪問、「国際人材交流服務境外機構資格」授与の感謝を伝える

▽協議団一行は、8日午前中、張建



張建国中国国家外国專家局長と会見

国際交流服務中心を訪問、業務会談を行う

▽8日午後、人力資源和社会保障部



国際交流服務中心で付躍欽主任と協定書調印

主任、梁志剛副主任以下幹部出席のもとで業務会談を行いました。

中国職工対外交流中心を訪問、幹部出席のもとで業務会談を行う

▽9日は、中国職工対外交流中心を訪問し、章国賢秘書長、毛孟輝技術



中国職工対外交流中心で章国賢秘書長と協定書調印

説明・提案を行い、意見交換の後、基本方針どおり中国側の合意を得ることができました。

両中心と新たに「包括的協力協定」を調印

▽その後、河野専務理事より当センターの「2013年度事業計画(案)」に基づいて、喫緊の課題である減少が続く技能実習生の受入拡大策や政府委託事業の継続受託、新規事業の展開加速などの具体的議題につき提案を行い、概ね提案どおり事業計画推進に協力していくことが合意されました。

また、両中心とは新たに、「事業展開に当たっての包括的協力協定」を調印することができました。

今回は各会談終了後、今後の新たな送出し機関となる予定の、人力資源和社会保障部国際交流服務中心傘下の「北京中職能国際経済技術合作

有限公司」および中国職工対外交流中心傘下の「青島中成職工対外交流有限公司」と、それぞれ「技能実習事業に関する基本協議書」と「職業紹介業務協議書」に調印しました。

貴州省总工会及び深圳市幹部と会見、友好を図る

▽10日には、貴州省貴陽に移動し、遵義地区を視察の後、貴州省总工会を訪問、楊再春経費審査委員会主任、楊傑貴州省職工対外交流中心主任以下と会見、12日には深圳市の深圳特別開発区博物館を視察、深圳市の発展の歴史などを見学後、楊建新深圳市总工会副主席と会見し、現地の総工会、職工中心幹部らとの友好交流を図ることができました。

センター各地方担当者に対し受入企業における労働関係法令遵守指導を徹底

第3回監査担当者会議

3月26日、当センター会議室において、12年度第3回監査担当者会議が開催されました。各地方の担当者が参集したほか、本部からは人見理事長以下関係役員、合計19名が出席しました。席上、人見理事長から12年度の総括と13年度の新しいとりくみについて挨拶が行われたのち、現在、当センターが特に指導に力を注いでいる受入企業における労働関係法令の遵守指導につき、実例を交えながら、各地方担当者はじめ関係部署に対し、具体的な指導内容を要請しました。



た。その他種々の課題について意見交換・情報共有の結果、よりいっそう質の高い実習事業の実施を行うことを確認しました。

派遣教師からのおたより

季節の移ろいを感じて—北京より

北京市 北京第二外国語学院 松下 澄子

2月17日、北京に戻り徐々にこちらの生活に再び順応させてい

この時期の北京は春節がやっと終わったのかなという感じで、地下鉄には大きな荷物を担いで乗り込んでくる出稼ぎの人の姿が目立ち、北京駅前の広場も帰省の人達でごった返しており、市街の工事現場も再び動き始めるなどエネルギッシュで、本当におもしろいですね。

12月、1月はとても寒く、北京へ戻ったら体調がどうなるかと心配していましたが、一度小雪が降った程度で、3月に入ってここ数日は15～16℃の日が続き、本当に気持ちが良いです。

TVで報道されるようなスモッグも気にならないくらいです(目に見えないだけだとは思いますが)。きれいな青空と、夜は星も見えますので、まあまあでしょう。いずれにしても、マスクをしている人はあまり見かけません。欧米人もあまりマスクをする習慣がないようなので、結局日本人だけがしっかりマスクをしているのかもしれない。N95のマスクはあまりにも仰々しいのでみんなの視線を集めているようです。学生に尋ねたら、「見えないから大丈夫、どうにもならないし」と慣れっ

になっていました。

果物はこここのところ大きな真赤なイチゴが売られているのが目につきます。とてもおいしそうだったので買いましたが、今ひとつ想像していたものとは違い少々がっかりです。パイナップルもシーズンなのかよく売っています。きれいに皮をとって売っているのは少々値段も高くなります。

正月明けは日本でもよく物が高くなりますが、私の買っている水も0.4元上がりました。学生食堂の料理も1元上がり、学生達は毎食のことなので、財布に響くと嘆いています。

授業の方は1コマ減りましたので、6クラス12時間です。3年生は留学する学生や戻ってきた学生でごちゃごちゃ、それに聴講生など、なんだかいつ人数が確定するの?という具合です。目下の私の悩みは、「4年生達が卒業論文の締め切りが近づくのに焦らないのはなぜなのか? 間に合うのかな!」です。学校は卒業させたい意向ですし、本当に難しい問題です。

3月3日は天気良かったので、西海・後海・前海に散歩に行きました。ここは、古い北京の雰囲気が残っていて、湖があるので私のお気に入りの場所です。大学の近くに地下鉄が開通し便利になりました。西海・後海・前海と湖沿いを歩いてきました。氷が融ん

できたせいでしょうか、12月には多くの人がスケートをしていた湖も、もうスケートリンクはなく、近づくボートの季節を待っているようです。

この季節、西海ではこんな楽しみ方をしていました。氷の上を歩く(歩かないように書いてあるのですが)、釣りを(氷に穴を開けたり、湖岸から釣り糸を垂らしたり)、そして泳ぐ(男女合わせて10名くらいの人が泳いでいました)等。



西海

こここのところ教室に行くと学生がきれいな紙を配って回収しているので、なにかと聞くと、「美人教師投票用紙」でした、8日が婦人節(国際婦人デー)なので、やっているようです。ここで言う美人というのは、容姿だけでなく立派な人を意味するといっていました。みんな担任の先生の名前を書いています。結果が楽しみです。女性の先生方はどんな気分なのかな? 今度聞いてみたいと思います。

5月末に日語学院の発表会があり、1年生は歌、2年生以上は劇をやるそうです。1年生は休み時間を利用して歌の練習を始めました。きちんと仕切る学生がいるので、スムーズに事が運んでいます。行事も適当に色々あって、学生生活は結構楽しそうです。

勉強の方は教科書下巻となり、一段と難しくなります。会話文が2ページ半、そして新出語が120もありました。「あぜ道」や「個人経営・養豚」などがあります。学生はひたすらこれを暗記します。あれだけの量が入る柔らかい頭が実に羨ましいです。ですから、教科書の文を生かして、うまく会話もできるようになっているのかなと思います。

4月になり寒い日が続きましたが、構内の桜の木も花をつけました。花が小さいので、それほど華やかではありませんが、桜を見て春を実感するのは日本人ですね。私が桜、桜と言っていたせいか、学生達が桜で有名な公園へお花見に連れて行ってくれました。まだ少し早かったようですが、木によっては満開で本当にきれいでした。



北京・玉淵潭公園でのお花見

4月4日からの清明節の連休には、学生は、故郷に帰省したり、旅行へと出かけるようです。どこもきっと混むと思いますので、私は北京の公園巡りと、予定のない学生とお好み焼きを作って食べようかと思っています。ほとんど料理をしたことがない学生に包丁を持たせ、フライパンの前に立ってもらおうと結構喜んでもらえます。そして簡単なおにぎりも作ってもらおうつもりです。

中国派遣日本語教師 北京経験交流会を開催

3月12日(18日)、教育部交流部チム(新井事務局長)・教育部交流部長・提教育交流部職員が中国を訪問し、当センター登録教師赴任校を視察するとともに北京において「経験交流会」を開催しました。

一行は、まず貴州大学を視察、学校関係者や学生と交流を行いました。ここでの日本語教師の役割は、

授業の他にスピーチ大会・貴州省朗読大会・作文コンクール・日本文化祭などのイベントへの協力や教材開発を行っていることでした。また、学生達の関心事は日本留学や日系企業への就職が主なものでありました。

経験交流会には、中国各地から18名の派遣教師が参加し、松澤隆志(浙江師範大学)、松下澄子(北京第二外国語学院)、寺元健二(河北師範

大学)、岡田重美(黒龍江東方学院)、目黒精一(福建師範大学)先生らから報告・発表があり、「学生が興味をもつような授業作り」、「学生の自主性を引き出すための授業」について意見交換がされるなど、終始和やかな雰囲気の中で交流が行われ、会議を終えることができました。



今年も、新たに13名が修了! ~ 2013年度中国派遣日本語教師研修会を開催 ~



4月14日～26日の日程で、今年も中国派遣日本語教師研修会が開催されました。会場である東京都八王子市の大学セミナーハウスには多彩な経歴を持つ13名の研修生が集い、約二週間にわたる日本語教育指導法の研修に臨みました。講義を担当する公益社団法人国際日本語普及協会は、毎年、前年の研修会における修了生のアンケートを基に真摯に検討し、その結果を新年度のカリキュラムに反映させています。そんな講師に負けじと、研修生達は、同じ志を持つ者同士、親睦を深めながら研鑽し、無事13名全員が修了証書を手にすることができました。

6月に 第八回(通常)理事会、 第五回評議員会(定時)を開催

- ① 評議員会開催に関する件
 - ② 2012年度事業報告の承認
 - ③ 2012年度決算並びに監査報告
 - ④ 2013年度事業計画(案)
 - ⑤ 2013年度予算(案)
 - ⑥ 「評議員」「監事」「理事」交代選任
 - ⑦ その他
- 6月11日(火) 14時より第八回(通常)理事会を、6月25日(火) 14時より第五回(定時)評議員会を当センター本部会議室にて開催します。本理事会・評議員会にて予定されている主な議題は、以下の通りです。

李克強新総理の政策

日中産学官交流機構

特別研究員 田中 修

3月の全人代で選出された李克強総理は、3月20日、日本の閣議にあたる國務院全体会議を開催し、当面の政策の基本方針を決定した。その概要を紹介したい。

(4) イノベーション型政府を建設する。

各部門はいずれも改革の措置を採用し、制度の刷新により、発展を推進しなければならない。

(5) 廉潔な政府を建設する。

國務院が社会に対して承諾した「3カ条の約束」(1)政府のオフィスビル・公会堂・ゲストハウスの新規建造禁止、(2)人員削減、(3)公費接待・公費海外出張・公費自動車購入の削減)を断固として実施し、勤儉な日々を送る。

(6) 法治政府を建設する。

各種政策はいずれも法に基づいた行政でなければならぬ。科学的発展に符合せず、社会の公正を妨げる法規・政策・規則については、整理を進める。

▽つまり、前政権がやり残した経済発展方式の転換を進めるとともに、セーフティネットをしっかりと構築して、クリーンな政府を作ることにより、大衆の将来不安・不平等感・政府への不満を緩和し、

社会の調和・安定を維持しようとしているのである。

△また政府の機能転換は「新政府がスタートしてまず最初にやらねばならぬ第1の仕事である」とする。具体的には「管理すべきでないミクロの事項は、断固として市場に開放し、社会に引き渡し、強化すべきマクロ管理は確実に強化する」とし、事前の審査・許認可を大幅に減らすことにより、民間投資を促進し、雇用を拡大し、企業の競争力を高めるとしている。これは、従来の市場に過剰に干渉する「大きな政府」から、市場にできるだけ委ね政府はやるべきことだけを行う「小さな政府」への転換を意味する。

△そして最後に、「政府は言ったことは実行しなければならず、空砲を放つてはならない。國務院の行った決定は、必ず割引なしで執行されなければならない。決して都合で変更してはならない。各レベル政府は、何もしない無気力な役人になってはならない」と結んでいる。

▽改革は各官庁・利害関係者・地方政府の大きな抵抗・サボタージュを伴う。これをはねのけ、経済体制改革を進められるかは、李総理のリーダーシップにかかっている。

田中 修 (たなか おさむ) 日中産学官交流機構特別研究員
1958年東京生まれ。1982年東京大学法学部卒業、大蔵省入省。在中国日本国大使館経済部一等書記官・参事官、財務省主計局主計官、信州大学経済学部教授、内閣府参事官を歴任。2009年4月～9月東京大学客員教授。2009年10月～東京大学EMEP講師。学術博士(東京大学)。著書は「2011～2015年の中国経済―第12次5カ年計画を読む―」(蒼蒼社)、「検証 現代中国の経済政策決定―近づく改革開放路線の臨界点―」(日本経済新聞出版社、2008年アジア・太平洋賞特別賞受賞)、「中国第10次5カ年計画―中国経済をどう読むか?―」(蒼蒼社)、「中国の経済構造改革」(共著、日本経済新聞出版社)他多数。

日本語教育・再考 (第四課)

技能実習生や働く外国人に対する日本語指導を考える (その4) ～『あたらしいじっせんにほんご』を教科書に使う～

公益社団法人 国際日本語普及協会 (AJALT) 地域日本語教育担当理事 関口 明子

▼今までの日本語の教科書の多くは留学生を対象に書かれていて、1年間かけて日本語の文法に沿って「聞く、話す、読む、書く」を勉強するようになっていきます。しかし、技能実習生や働く外国人に必要な日本語は教科書になかなか出てきません。このような一般的な教科書を使っていると職場で役に立つ日本語が、あまり使えないようにならないのが現状です。

▼『あたらしいじっせんにほんご』は長期間の日本語学習が望めない技能実習生や働く外国人のために作成したものです。私はその著者の一人としてできるだけ多くの方々にこの教科書の意図使い方を理解して使ってほしいと思っています。

▼まず教科書に入る前に以下の2点を行ってください。

(1) 通訳を通して自国の学習方法と違うことを説明する。

最近では自国で日本語を学習してくる人々が増えました。そこで自国での学習の仕方と違うことを通訳の方を通して説明をします。学習者の頭の中には自国で学習してきた日本語がたくさん入っています。しかし、来日して日本人に話しかけられても口から日本語が出てこないことが多いです。

日本での勉強はその頭の中にあ

る日本語が適切な状況で口から出てくるための勉強であること、つまり日本語の運用力をつける、コミュニケーションができるようになることが目的であること、椅子にすわって教師の話の話を聞いているだけではなく、絵や実物を使ったり、動作をしたりするやり方であることなどを話します。

やり方の違いに戸惑ったり、これは勉強ではないと思ったりする学習者もいますので、最初にきちんと説明する必要があります。

(2) 「ていねいなことば」と「ともだちことば」は一課から継続的に学習する。

日本語には「ていねいなことば」と「ともだちことば」があることを最初から理解してもらいます。一般的な日本語の教科書は丁寧な「～です」、「～ます」の形の表現を最初ずっと勉強します。「ともだちことば」はなかなかできません。しかし学習者の実習の現場、働く現場は、その丁寧な言い方より、「こっちへ来い」「まだ!」「向こうへ運んで」「ここに置いて」「スイッチ切れ!」などの表現をよく聞きます。学習者は教室の中での日本語と現場の日本語のギャップにびっくりします。もちろんギャップはあるのは当然

ですが、できるだけ、少しでもそのギャップを少なくすることが大切だと考えます。『あたらしいじっせんにほんご』は一課から両方が出てきます。一課から慣れていくことが大切だからです。実習生や働く外国人の現場を考えると、学習者はできるだけ「ともだちことば」を聞き、意味をとる練習が必要です。

しかし、日本語の使い分けがまだできない実習生や働く外国人は、「ていねいなことば」を使うようにした方が安心です。「ともだちことば」を聞くことに慣れること、そして自分から話す言葉は「ていねいなことば」ということがこの教科書のコンセプトになります。

では実際に授業でこの違いを継続的に練習する方法について説明します。ホワイトボードに以下のように日本語と翻訳と4枚の絵を貼ります。

- ① 「ていねいなことば」と言いながら翻訳語を指します。「おはようございます」と言いながら上司に挨拶している絵を指し、丁寧に「おはようございます」と言います。
- ② 「ともだちことば」と言いながら翻訳語を指します。「おはよう!」と言いながら友達同士で挨拶している絵を指し、明るく元気に「おはよう」と教師が言います。

次に同様に「ていねいなことば」と言いながら翻訳語を指して、「ありがとうございます」と言って上

司から何かもらっている絵を指します。「ありがとうございます」と言いながら同様に友達から何かもらっている絵を指します。それを繰り返し、学習者だけに言ってもらいます。数日間は黒板の端にそのままセットしておくといいでしょう。

説明なしでも大丈夫です。これで「ていねいなことば」と「ともだちことば」の違いは最初からでも理解ができます。



さあ、これで一課から勉強する準備ができました。

●講習会のご案内

毎年夏に、AJALTの著作教材を活用した教え方講習会を開いております。〈働く外国人向け教え方講習会―現場の日本語 身につくように教えよう〉講座では、技能実習生や働く外国人が出会う様々な場面や現場を活用して、コミュニケーションを大切にしながら、現場で役立つ日本語を身につけてもらう効果的な指導法をお伝えします。前回ご紹介したテキスト『あたらしいじっせんにほんご』を活用した授業の方法もご紹介します。

詳しくはHP (<http://www.ajalt.org/teach/teacher/>) をご覧ください。

公益社団法人国際日本語普及協会 (AJALT)
TEL (03) 3459-9620
FAX (03) 3459-9660